



## 医療・看護安全対策委員会情報（第16回）

### 医療における「もの」のリスク

人間の行動は生まれながらに持つ特性と環境との相互作用によって決定され、その決められた行動が逸脱したときに「エラー」が起こるといわれています。そのため、個人の注意力や意識に頼るだけの安全対策には限界があり、着目すべきはむしろエラーを引き起こしやすいハードウェアとしての「もの」を含めた環境にあると認識されてきました。つまり、患者の安全を確保し、かつ医療者がミスを起こさないためには環境を無視しては考えられず、従来の個人への教育・訓練による対策から、今後は「もの」、「手順書」、「勤務形態」「チーム」、「ナースステーション」などを含めた環境を重視した対策へのシフトが重要であると言えます。

今回は特に、皆さんが日常使っている「もの」に関して見直してみて、「医療者がミスを起こさない設計」の提案を、製薬、医療機器メーカーに発信していきましょう。

文献 河野龍太郎：医療における「もの」のリスク、pp10-13、医療安全 2005 Jun no 4.